



はじめに

新潟県立看護大学学長 渡邊 隆

本年度4月から学長の任をあずかりました渡邊隆と申します。改めてご挨拶申し上げます。

昨年度は、学長不在という大変な事態を迎えての一年でした。ご心配をおかけした学生の皆さん、そして、保護者さらには県民の皆様に、あらためて心よりお詫びを申し上げる次第です。また、これまで心強い支援を継続して下さりましたことへも深く感謝申し上げます。

一方で、昨年度は中野学長代行を中心とした教職員の努力により、助産学講座も長年不在だった教授陣を迎え、この四月から開講いたしました。これで、本学も、本来の姿に戻り新たな出発が期待される所です。また、今年も元氣な新入生を迎えました。学部生88名、3年次編入生5名、そして修士課程の3名、合計96名の新入生です。

私たちの看護大学は、今から7年前に、看護職者不足の解消や、質の高い看護職者の養成を目的として県立看護短期大学を母体として、改組・創設された大学です。

建学理念は、「ゆうゆうくらしづくり」であり、この精神は、地域とともに発展する大学、県民の生活に溶け込み、地域に貢献する大学を目指しています。そのため教育・研究においては、「地域文化に根ざした看護科学の考究」を使命とした大学です。特に、本大学には、看護研究交流センターを付設しており、県民や現任の看護職員の生涯にわたる学習ニーズに寄り、あわせて市町村自治体の保健・医療、福祉に関わる研究や実施を目指しています。

一方、私たちの住んでいる上越地域は、教育・保健・医療・福祉の文化を大切にする気風があります。小学校も100年を越す歴史を持つ学校が数々あり、学校教育の充実ぶりを示しています。さらに、上越のこの地には、古くから特別支援を必要とする人々に優しく、高田盲学校や大正時代から心の病について積極的に取り組んでこられた川室記念病院さらに看護学の発展に寄与した知命堂病院など、人を支えるさまざまな文化がいっぱいあります。こうしてみると、この地には、人が生まれてから亡くなるまで、学校教育そして

病や特別支援など広く人を支えてくれる文化が築かれていますことに気づきます。

そして今、私たちの環境が変わろうとしています。道路高速網は上越市を中心に整備され、6年のうちには、北陸新幹線がやってきます。いまからおよそ100年前にも同じような状況がありました。1913年に信越線をつなぐ北陸線が全通しました。「大正の越前高田は、新潟、長野、富山の三県結ぶ天与の地理上の価値を發すべき」と高田日報に記載され、上越の地は北陸の中心にあり、益々の発展が期待されたということです。新幹線がくるこの機に、上越は、北陸新幹線の中核駅になることでしょう。中核都市の魅力は、その地域の生活基盤である地域の教育・健康・医療・福祉が充実していることです。本学の地域と連携した看護・医療実践がまさにそれを支えるのです。地域の期待に応え、新たな出発に全学の力を結集してがんばって行きましょう。



もくじ

- 1 はじめに 渡邊 隆
- 2 新入生のメッセージ
- 3 学外オリエンテーリング
- 6 卒業研究発表会
大学院学位論文発表会



- 7 卒業式 学位記授与式

- 4 新教職員・新職員の横顔
- 5 実習



卒業生は今
科学研究費採択課題一覧



- 8 入試関連情報

新潟県立看護大学に入学して

1年 上坂 唯子

念願の新潟県立看護大学に入学して、はや3週間が経ちました。初めての経験ばかりに四苦八苦ながらも、今までの時間はあっという間に過ぎていったように思います。ちゃんと一人暮らしできるか、友達はあるか、勉強にはついていけるか……。初めの頃は、待ちに待っていた大学生活を楽しむ余裕もなく、不安な気持ちばかりでした。しかし、だんだん一人暮らしにも慣れ、オリエンテーションなどを通してたくさんの人と仲良くなることもできました。また、学外オリエンテーションでは、インディアカやウォークラリーなどで新しい友達と

の交流を深めただけでなく、高田の町について少し知ることもできました。県外から来た私にとって、新しい土地である高田について知ることはとても有意義な事だったと思います。また、高校時代とは全く異なる授業の内容にも少しずつ慣れてきました。ほぼ標準語のここ上越では、富山県出身の私のなまりが少々目立つようですが、それも個性！と開き直り、今はとても充実した大学生活を楽しんでいます。

入学してからのこの短期間の中で、私はすでにたくさんの経験をしました。しかし、これからはもっとたくさんのことが経験できると思います。「ちゃんと単位取れるかなあ……」などと、まだまだ不安は尽き

ませんが、看護の勉強やサークルなど、私はこの先の大学生活がとても楽しみです。きっといい事ばかりではないけど、「看護師になりたい！」という自分自身の思いを糧に、いろんなことに挑戦していきたいと思っています。そしてこれからの大学生活を、より楽しく、より充実した4年間にしたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



1年 森 佳弥穂

県立看護大学に入学という希望叶い、この春から久しぶりの学生生活が始まりました。緊張に始まった入学式からはや一ヶ月が経とうとしています。年齢差があるけれど、友達できるかな……という最初の不安も、様々なイベントを通して、徐々に解消していきました。今では笑い話としてできたての友達とその頃を思い返しています。また、日々新たな人との出会いがあったりと、毎日楽しく過ごしています。

1日を通して特に楽しい時間はお昼休憩です。お昼ごはんを食べながら、たわいも

ないおしゃべりをするのは何よりも楽しく、1日授業をする中で息抜きができる時間です。初めて受ける教科や学科の授業も、とても興味深く受講しています。先生の話聞き逃さぬよう、必死にノートを取りながらくっついていっている状況です。外に目を向けてみると、自然と歴史が共存する高田の街の素晴らしさに感動します。環境が良く住みやすい、とてもいい街だと思いました。

そんな街で今こうして勉強ができるということにとっても喜びを感じ、幸せに思います。ここにくるまでに、たくさんの方々の助けをいただき、家族の理解があったか

らこそ今があります。これから先、大変なこともあると思いますが、自分の見方や考え方を少し変えるだけで、世界は何色にも変わります。自分の目標と、見守ってくれている人への感謝の気持ちを忘れず、これからの4年間を実り多きものにしていきたいと思っています。



編入3年 宮本 えり菜

私はこの春、長野の看護学校を卒業し、新潟県立看護大学に編入学し、初めて一人暮らしを体験しました。一人で暮らしを感じることは、ひとえに親のありがたさです。まだ新潟に来たばかりで、戸惑うことも多いですが、一緒に編入してきた同級生や、先輩後輩に助けられてなんとか生活にも慣れつつあります。大学に来てまず感じたことは専門の時とは違い、自ら学ぶ姿勢を持つことが重要になってくるということです。先生方は些細な質問でも丁寧に答えてくれるので、疑問を持って質問することで、少しでも多くのことを吸収していきたいと思っています。また、オフィスアワーな

どが示されており、いつ訪室してよいのかがはっきりわかるので、気軽に先生方に声をかけやすくなっているのだろうと感じました。専門学校時代は、ただ与えられたカリキュラムをこなすばかりだったので、自分がやりたい科目を選択するということがとても新鮮でした。自由なことが多くていいなと感じました。

また学年は関係なく学生同士の仲がとてもよいなと思いました。編入生の先輩も、気軽に声をかけてくれ、わからないことだらけの私たちに、早く大学生活に馴染めるようにと歓迎会などをしてくださったり、質問にも丁寧に気さくに答えて下さり、わからないことがあればいつでも声をかけてなど、色々とお気にかけて下さいました。

それがとても心強く、嬉しかったので編入生のつながりはこれからも大切にしていきたいと思いました。

看護を学ぶには最適の環境だと思うので、特に学びを深めていきたいと考えている地域看護をはじめ、この二年間で自分のこの看護観を深めていきたいと思っています。看護だけでなく、様々な体験をして、充実した大学生活を送っていききたいと思っています。



修士1年 北村 千章

助産師としての臨床現場や看護学校での教員現場は、いつも忙しい毎日でした。気が付いたら、三人の娘たちも大きくなり、高校生と中学生になりました。そんな毎日の中にも、いつも看護や教育に対する疑

問がたくさんありましたが、その疑問に対して通りすぎるしかない生活を送っていました。私のように、結婚をして子育てをして仕事を続けていると、時間は、あっという間に過ぎてしまうのです。そんな時に、看護学校での教え子が、大学院に進学をしたという報告を受けました。私には羨まし

い限りの内容でした。しかし、そのことがきっかけで、私も、日々感じている疑問を解決していける方法やそういう生き方がしたいと、大学院進学にどんどん心が魅かれて行きました。そんな中、私の大学病院時代の先輩である、現佐久大学の小児看護学の准教授に偶然再会しました。そこから

が、私の人生の転機を迎えたのです。私がその先輩と出会ったのは、杏林大学病院のNICU病棟でした。新人の私に助産師になることを勧めてくれたのも先輩でした。そこで育てた子供達のその後が知りたくて、「東京都の心臓病を守る会のサマーキャンプ」への参加を勧めてくれたのもその先輩でした。私は、その後助産師になり、そのキャンプへも20年以上続けてボランティア参加を続けてきました。今回の大学院で

の研究テーマは、そのボランティア活動の中に見つけています。

大学生活が始まり、まだ慣れないことが多く苦勞はしていますが、学ぶことの楽しさを実感しています。2年間を充実した時間になりたいと思っています。住まいは長野県須坂市なので、高速通学をしています。長野県から新潟県に入る瞬間の妙高の景色の美しさに癒されて、元気をもらいながら通学してきています。与えられた幸せな

時間を大切にしていきたいと思います。よろしくお願ひします。



歓迎

歓迎の言葉

3年 青野 巧

高田公園の桜も蕾をつけ、春の気配もようやく濃くなり始めた今日、新入生の皆様、ご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。

私たちが在校生一同、皆様のご入学を心待ちにしておりました。ここで大学生活をより良く過ごすために3つのアドバイスをしたいと思います。

一つ目は、挨拶をしっかりとすることです。本学では、朝大学に来るとクラスの仲間はもちろん先輩、後輩、教職員、清掃員の皆さんと挨拶をかわします。そのアットホームな雰囲気为本学が一番良いところだと思います。皆さんも、実習に出ると様々な患者さんとコミュニケーションをとるこ

とになります。挨拶はコミュニケーションを円滑にしてくれるので、積極的に自分から挨拶をするといいと思います。

二つ目は、サークル活動に積極的に参加することをお勧めします。サークル活動への参加を通じて、多くの繋がりを得ることができます。先輩からテストや実習など、大学生活を乗り越えるコツも教えてもらえるかもしれません。先輩たちもサークル活動を通じて皆さんと交流できることを楽しみにしています。

三つ目は、日々、目標を持って物事に取り組むことです。これからの4年間は勉強、サークルなど沢山の経験が待っています。目標を持って取り組むことによって物事

にたいしてやる気が出ます。なので何事にも目標を持って取り組みましょう。

また、先生方は皆個性的で優しく、先輩も優しい人たちなので分からないことは遠慮せず何でも聞いてください。そして、清掃の方、食堂の方、用務員の方はみな優しく元気なので挨拶をしてみてください。

すると、笑顔で挨拶を返してくれますよ。最後になりますが、新入生の皆様、ご家族の皆様、本当にご入学おめでとうございます。



学外オリエンテーション

平成21年度学外オリエンテーションに同行して

人間環境科学領域情報科学 助教 永吉 雅人

4月10・11日に新入生である1年生と編入3年生を対象とした学外オリエンテーションが行われました。私は8期生の学年担任として参加させて頂きました。

1日目の午前には、学内の体育館にてグループ対抗のインディアカが行われ、白熱した試合が展開されました。私も参加し、結果は惜しくも準優勝。残念！

次に昼食後、学生による歓迎レセプションにて、サークル紹介や校歌の練習が行われました。その後、クラス委員の司会によ

り、クラスの係を立候補にて決めていきました。すんなりと決まっていき、新入生のやる気のある姿勢が伺えました。

その後は、バスにて雪だるま高原キュービットビレッジに向かいました。楽しい夕食の後、同行した教職員と新入生全員の自己紹介がありました。新入生の皆さんは緊張しながらもユーモア溢れる自己紹介をしていました。そして、学生4~6人で1つのコテージに宿泊。一晩共に過ごすことによって学生同士の絆も深まったのでは

ないでしょうか。

2日目は、朝食後大学へと戻り、高田の文化に触れるためのウォークラリーが行われました。グループごとに、小川呉服店や高橋鮎屋などの決められたポイントを通過して、高田の旧所名跡を散策しました。高田公園の桜は、学生を待っていたかのように満開で、学生たちはお花見も楽しんでいる様子でした。

こうして充実した学外オリエンテーションは終了しました。この学外オリエンテーションが新入生の皆さんにとって良い仲間作りのきっかけになればと思います。



自己紹介



インディアカ

新 教職員・新職員 の 横 顔

教授 中島 通子

はじめまして、4月から臨床看護領域、助産学に赴任いたしました。新潟県上越市に足を踏み入れ、日本は縦に長いということがとても身近に感じられました。直前まで、コートも要らず動き回っていました。こちらでは、みぞれが降り、ストーブとエアコンを使用しないと震えあがるといった状況に驚きました。そして、長く厳しい冬が過ぎ、いかに春を楽しみに皆さんが待っておられるかが良く分かりました。妙高山の美しさ、高田公園の桜、どの方にうかがっても、四季が

講師 高島 葉子

はじめまして、4月から臨床看護学領域助産学の教員として勤務しています。開学以降しばらくお休みしていた助産学が今年度から再開しました。4月1日に着任して以来、中島教授を中心に助産学メンバー6人で、講義・演習の準備、実習要項の作成など、充実した毎日を過ごしています。教育方法・内容を試行錯誤する日々でもありますが、学生たちのスポンジが水を吸うごとく知識を蓄え、成長する姿をみるのが、自分自身を鼓舞することになっています。

さて、私は助産師として臨床経験、看護学校教員、地域で開業助産師等をしてまいりました。特に、地域での仕事は多く、このことを気づかせてくれました。母親・家族は、日常生活をしながら、赤ちゃんを育てていくことを本当に一生懸命行っています。けれども、赤ちゃんを理解し、受け止めていくには、多くの葛藤や心の

助教 菊地 美帆

この4月から助産学の助教として、毎日忙しく、そして楽しく仕事をさせて頂いております。教員として仕事をすることは初めてですが、大自然に囲まれたロケーションの中で仕事ができることを嬉しく思います。

私は今まで臨床の助産師として仕事をしてきました。助産師としての仕事は責任のある仕事で、何年経験を積んでも緊張感がありますが、生命誕生の感動、そして助産師の仕事の素晴らしさを、多くの

助教 郷 更織

こんにちは。4月から、小児看護学の助教としてお世話になっております。こちらに来て早々に、高田公園で桜を観ました。とてもきれいで、上越の魅力を実感しました。その桜も今はもう葉桜です。もう1か月が過ぎるのかと感じながら、今、この原稿を書いています。

私は、地元である新潟市で学生時代を過ごし、卒業と同時に、東京の大学病院で看護師として就職しました。入職時の私の希望配属先は、成人外科病棟でした。しかし、実際に配属されたのは小児内科

助教 角山 裕美子

はじめまして、4月から老年看護学の教

ははっきりして、良い所と話してくださいます。皆さんの温かさに触れながら、環境に適応できたらと思っております。

さて、私は、関西に居を構えております。日本一の琵琶湖が目の前に、そして古い歴史の町、京都市内には10分といったところです。臨床助産師として働き、その後大学教員として現在に至っております。助産師として学ばせて頂いたことを、学生に伝え仲間を作って行けたらよいと考えております。健康で幸せな家族と子どもの成長・発達に寄与できることを業とできる助産師を選んで良かった、と思ってもらえるように力を注げたら幸

揺らぎを日々感じながら生活することでもあることを再確認しました。

私は要請があり、必要と判断すれば、土日・夜間でも訪問しておりました。電話の対応だけで落ち着き、赤ちゃんに向き合えることも多いのですが、face to faceし、傾聴し、必要なことを具体的に助言することは、母親・家族のセルフケア能力を高めるうえで重要なことでした。家族のように寄り添える仕事に喜びと責任を感じさせていただきました。この仕事を通して知り合ったお母様方と、地域の子育てサークルを立ち上げる中で、地域の福祉計画や子育て支援政策の立案にもかかわることができました。これらの仕事や活動を通じて、地域で暮らす多くの人々、行政や医療機関の方々とながかり、連携していくことの必要性も実感できました。

教員という立場となった今、基本的な助産学とともに、地域で働いた助産師としてのこれまでの経験をどう具現化して

学生さんに伝えていきたいと思っております。今後、多くの助産師が新潟県立看護大学から巣立っていけるよう、私なりに精一杯お手伝いしていきたいと思っております。

私は以前、青年海外協力隊、NGOを通し、南米、アジアで地域保健活動、保健センター助産師の教育等に携わりました。また、個人的にはインド、アフリカで医療ボランティア活動を経験してきました。私が世界の国々で実際にみて体験してきたことを、多くの学生さんに伝えていきたいと思っております。学生の皆さんには、今世界で起きている貧困やさまざまな問題

病棟。全く希望していないところでしたが、この配属を、苦手意識をなくすためのチャンスなのだなと思ったことを、今でも覚えています。なぜなら私は、学生時代の臨床実習で、「小児看護」は難しいなと実感した体験があったからです。がん治療を受ける幼児期の子どもを担当した私は、自分ができる看護ケアの小ささを実感せざるを得ませんでした。今振り返れば、その体験があるからこそ、「小児看護」を深く考えることにつながったのかなと思います。何はともあれ、もともと子ども好きでもあり、子どもの魅力にどんどん引き込まれて現在に至ります。

員としてお世話になっております。私の出身は、山形ですが、3月まで新潟市に在住しておりました。新潟に来て今年で3年

います。

私ことではありますが、とにかく身体を動かすことが好きです。動きながら考える、いろんなことを覚えるなどです。空気が澄んで環境の良い上越で私ができることを探し、そして努力してゆく所存しております。皆さんどうぞよろしくお願ひ致します。



いくか、学生たちにどう伝えていくか考えているところです。自分自身が教材の一つであり、無意図的教育的意義からすれば、学生は何かを受け取ってくれるものと思えます。

私は単身赴任で、自宅は越後一宮弥彦神社から車で5分の岩室温泉（住所名）です。温泉施設が豊富で風光明媚なところは、ここ上越の地と同じです。自宅近くには直江兼続の弟が城主だった天神山があり、6~7月には冬妻（ひよつまつ）ホテルが乱舞し、四季折々に見せてくれる風景は美しく心癒めてくれていました。どうぞ、岩室温泉にもお越し下さい。「きなれや〜」ね。



に関心を持って頂きたいと思っております。

教員1年生ですが、教員の皆さんからご指導を頂き、そして学生の皆さんから多くのことを学び、教員として成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



子どもには、とても大きな「可能性」があります。「可能性」は、私の大好きな言葉です。そして、この「可能性」を拡げられるのは「出会い」と感じる今日この頃です。

上越で、また新たな出会いに恵まれたことをとてもうれしく思っています。これから、どうぞよろしくお願い致します。



目になります。今年のNHK大河ドラマ「天地人」で舞台となっているこちら上越市、そして主人公直江兼続公が半生を過

ごした私の故郷山形、何かご縁があるのかなと思っています。また、妙高山や高田公園の桜など、この風景もどこか故郷に似ていて、来たときから親近感を持っています。

私は、臨床では手術を受けられる高齢の患者さんが多い急性期の病棟に勤務しておりました。高齢の患者さんにとって手術は大きなリスクを伴うことですが、それを乗り越えられ、元気に退院していく姿をみて、少しでも患者さんの力になりたい、よりよい看護を提供できたらと

考えておりました。入職して勤務にも少し慣れたころ、もう少し勉強してみたいと思い、大学院への進学を決めました。職場の方々のご協力で、臨床をしながら大学院で学ぶことができました。仕事と勉学の両立は大変なこともありましたが、学ぶ楽しさを覚え、何より患者さんへよりよい看護を提供できるということを実感できた機会でもありました。これからも看護のすばらしさ、楽しさを学生の皆さんと勉強していくなかで感じ、考えていきたいと思っています。教員としても

研究者としてもまだまだご指導いただきながら、日々頑張っていこうと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



助手 弓納持 浩子

はじめまして。助産学の助手として赴任してまいりました。私は、本大学が県立看護短期大学の頃の助産専攻科の3期生です。ですので、再びこのような形で大学での生活が始まったことが嬉しく、学生に戻ったような新鮮な気持ちで毎日過ごしています。専攻科での1年間は講義・実習・記録に追われ、嵐のような毎日でしたが、そこで得られた多くのことが今の私の基礎となっています。専攻科を卒業後は新潟県病院局に入り、県立病院をいくつか転勤し、今は県立中央病

院の産婦人科病棟に所属しています。助産師になるきっかけになったのは、看護学生の時の母性の分娩実習でのことでした。陣痛でとても辛そうな産婦さんのケアをすることになった私は、陣痛が来るたびに産婦さんの腰をひたすらマッサージし続けました。産婦さんが一生懸命頑張っているのに、私は腰をさすることしかできないと、もどかしい気持ちになったのですが、後日、無事に出産された産婦さんにとっても感謝されました。産婦さんに寄り添って、一緒になって分娩に向かう姿勢の大切さを学びましたし、新しい生命の誕生に立ち会わせていただける

ことは素晴らしいと思い、助産師をめざしました。今でも、分娩介助をして赤ちゃんが生まれる時は感動しますし、お母さんや赤ちゃんから沢山のことを学び、やりがいを感じて働いています。まだ、助産師としては未熟者ですが、臨床での経験を生かして精一杯頑張ろうと思います。よろしくお祈り致します。



新入職員 (敬称略、五十音順)

氏名	白石 優一	杉田 和久	高橋 精一	遠山 智津	渡辺 勝
出身地	糸魚川市	上越市	上越市		糸魚川市
前職	糸魚川地域振興局健康福祉部	直江津港湾事務所	糸魚川地域振興局地域整備部用地課		糸魚川地域振興局地域整備部庶務課行政係
趣味	運動	運動、寄せ植え盆栽、骨董	囲碁	ガーデニング、ドライブ	音楽
抱負	わからないことばかりですが、早く仕事を覚えるよう頑張りますので、よろしくお祈りします。	学生さんが快適に勉学に動じむことができるよう教職員の一人として努めたいと思います。	県へ入職してから教育職場は初めてですが、希望に満ちて入学された学生の皆様のために初心を忘れず微力ですが人材教育に向けた職務を全うしていきたいと思っています。	職員の一員として頑張りますのでよろしくお祈りします。	一日も早く職場に慣れ、皆様の大学生活が快適に送れるようお手伝いできれば幸いです。

実習

領域別実習を終えて

4年 長澤 裕美

領域別実習を通して、仲間の大切さをあらためて感じました。3年次の実習は、とても長く、学ぶこともたくさんありましたが、苦しいことやつらいこともたくさんありました。看護技術がうまくいかなかったり、考えがまとまらず記録がうまく書けなかったりして、落ち込むことがありました。また、受け持ち患者さんの病態について調べなければわからないこ

とが多くあり、自分の知識のなさを痛感しました。しかし、約5ヶ月の実習を乗り越えることができたのは、グループメンバーの支えがあったからだと思います。毎日夜遅くまで一緒に学校に残って記録を書いたり、アイデアを出し合って看護ケアを一緒に考えたりして、つらさを共有しお互いに励ましあうことで、大変なのは自分だけではないと思うことができました。また、時にはみんなでごはんを食べに行ったり遊びに行ったりして気分転換をすることで、がんばろうという



▲後列中央が長澤さん

気持ちを持ち続けることができたと思います。今年は、地域看護学実習や国家試験など大きなイベントがありますが、同じ目標に向かって頑張る仲間たちと支えあって、乗り越えていきたいと思っています。

4年 影山 修平

新入生のみなさん御入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れたでしょうか。看護大学では3年次の9月の頭から、1月末にかけて、小児・母性・成人・老年・精神看護学の領域別実習があります。

実習全体を通して私は様々なことを学びました。その中のひとつに看護の基本である業務に囚われない看護があります。ある実習の時、1日の行動計画を実習担当教員に見せたところ、「なぜ影山君は清拭をしようと思ったの?」と言われました。このとき私は返す言葉が口から出てきませんでした。なぜなら私は考えもなしに実習先の病棟でこの時間に清拭を行

なっているから、ただそれだけの理由で行動計画に清拭を入れていたのです。返答に困っていると「影山君の患者さんは現在入浴もできる状態だし、感染のリスクも低い状態だよ。ただ業務にあるからやるんじゃないかって、きちんと患者さんの状態をみて影山君が必要だと判断したならケアを行えばいいし、必要ないと判断したなら行なわなくてもいいんじゃないか。」と声をかけられました。このときの担当教員の助言で私は患者にととのケアの必要性をきちんと理解していなかったことに気づかされました。それからケアの必要性をきちんと理解したうえでケアを実施するように心がけました。患者の情報を主観・客観的にアセスメ

ントし、ケアの必要性を確認し実施することが、看護の基本であり、自分はその基本ができていないことを実習中に目の当たりにしました。しかし、そのことをきちんと受け止め、反省し、次に繋げたことで、自分自身また一歩成長できたと思います。当たり前かのように思える基本的なことですが、そんな基本を私は領域別実習を通して再確認することができました。



卒業研究発表会

2008年12月19・20日にこの3月に卒業した4期生が取り組んだ卒業研究の発表会が行われました。19日は学会発表なさがらに研究内容を発表し、質疑応答が行われました。



大学院学位論文発表会



3月3日、学位論文発表会が行われました。在学中に作成された研究に対して、活発な質疑応答が行われました。

発表された論文

脳卒中後遺者の療養生活における主体的活動

終末期実習に対する看護学生の構えに関する研究

肺がん終末期患者にとっての呼吸困難感とは

外来化学療法を受ける患者の口腔有害事象に関する研究

修士課程を修了して

上ノ山 すみ

大学院に入り、有名な先生方の講義や指導を直接受けられることに喜びを感じ、充実した始まりはすぐに自分でプレゼンテーションをする大変さになり、論文に向けた資料集めやテーマについての検討の繰り返し、研究計画書の作成へと困難さが増していきました。必死の思いで作成した研究計画書を提出した後も研究の実施に向けての情報収集と先生方の指導はさらに厳しく、綿密なものになりました。

仕事と学業を両立するために生活の一切を切り捨て、計画書を提出してからは、とにかく勤務が終わったら、大学の院生室に直行して、資料やパソコンとにらみ

合いをしました。こんなことで論文ができるだろうかという不安との戦いでした。能率が悪く、時間ばかり過ぎていたり、前日考えたことが全部ひっくり返ったりといったことの繰り返しでしたが、一朝一夕にできる力などないことを自覚し、とにかく院生室に通いました。不安や孤独との戦いに耐えられたのは、研究に協力して頂いた対象者の方や施設の方の好意を無駄にできないという思いからでした。また指導や相談に伺った後に先生方の励ましの一言が落ち込んでいる気持ちを救ってくれました。

論文が提出でき、修士課程を修了できたのは多くの方がたの協力があったから

です。働きながら学ぶことは大変ですが、この地に大学院という学ぶことのできる場があることは絶好のチャンスです。もっと多くの人に活用していただきたいと思います。



修士課程を修了して

星野 めぐみ

私の大学院生活では、実習と課題研究という大きな山が2つありましたが、特に思い出に残るのは、実習です。がん看護CNSコースでは、2年間に約3か月間の実習があり、看護学生時代の悲惨な実習がトラウマとなっている私にとって、この長期の実習は始まる前から、心を曇らせていました。実際に、実習中は、レポート作成のための徹夜や、梅雨時で連日雨の静岡がんセンターでの実習ではかび臭い部屋の中、高熱を出して寝込んだり

と、辛い日々でありました。しかし、どこの実習先の指導者の方々も、学生の考えを大切に心こもった指導を下され、有意義な実習をさせていただきました。おかげで、今では、辛かったことにこそ懐かしさを感じます。修士課程修了から、あっという間に一か月が過ぎました。現在は、自らの視点や判断で活動を進めなければならず、重圧に押しつぶされそうになりますが、あせらず、一つ一つ課題に取り組んでいきたいと考え

ています。



卒業式 学位記授与式



3月19日、学部・大学院の卒業式 学位記授与式が行われました。

学部生を卒業した88名、修士課程の修了生4名が、卒業証書と学位記を受け取りました。

■ 学部4期生の卒後の進路

卒業生数	88名	
看護師として就職	県内	41
	県外	34
保健師として就職	県内	0
	県外	3
進学	5	
その他	5	

卒業生は今

近況報告

1期生(2006年卒) 内藤みほ、高橋亜矢、玉木まゆ
2期生(2007年卒) 中村有希、沼田美穂



玉木さん 高橋さん 内藤さん

私たちは、新潟県立看護大学を卒業後、静岡県立静岡がんセンターに就職し、がん看護を中心に臨床経験を積んでいます。5名の配属先は、乳腺・女性内科の混合病棟、血液幹細胞移植科・小児科の混合病棟、消化器内科とさまざまであり、対象となる疾患も乳がんや白血病、大腸癌、肝胆膵がんなど多岐にわたっています。

静岡がんセンターは、静岡県の東部地域(神奈川県に隣接)にあり、天気の良い日には雄大な富士山や駿河湾が望め、自然環境に恵まれています。夜勤の時には、病院から見える駿河湾の夜景は絶景で癒されています。

静岡がんセンターの患者さんのほとんどはがん患者さんです。そのため静岡がんセンターでは、患者さん・ご家族をチ

ームの輪の中心に位置付け、がん医療に係わるすべての職種がチームを組み緊密な連携のもと、患者さんをサポートしていく体制をとっています。

看護師は患者ケアの総合責任者、担当医は患者さんの診療責任者、診療科部長は臓器別チームのリーダーです。看護師長は病棟の統括者としてチーム活動が円滑に行われているかを常に観察し、問題があれば介入して調整する役割を持っています。『今、なにが患者さんにとって大切なことか』をチーム全体で考え、職種の専門性を尊重しながら、患者さんも医療従事者も納得できる医療を行う要として看護師は期待されています。

そのため、看護師は、医療の進歩とともに常に新しい知識・技術を身につけ、

患者により良い医療が提供できるよう努力しなければなりません。しかし、当院では専門看護師・認定看護師も他の病院に比べ多く在籍しており、必要時に相談し専門的なアドバイスを求めることも可能であり、専門的な知識を吸収できるとともに、安心して業務にあたる事ができます。これは仕事を続けていく上でとてもよいモデル、刺激となっています。

臨床経験が未熟な現在、まだまだ分からないことや戸惑うことも多いですが、日々学習しよりよい看護を提供できるよう頑張っていきたいと思います。

平成21年度科学研究費採択課題一覧

	研究代表者	課題 (期間)	研究種目
1 新規採択課題	徐 淑子	個人・行動・環境・健康リスクをコア概念とした薬物・アルコール依存症予防教育の画策(2009~2011年度)	基盤研究C
	藤田 尚	韓国出土古人骨の形質人類学的研究(2009~2011年度)	基盤研究C
	大久保明子	子どもを亡くした遺族のグリーフワークを支える社会的ネットワークに関する研究(2009~2011年度)	基盤研究C
	小林 恵子	子ども虐待実践事例の集積と看護実践への適用に関する研究(2009~2011年度)	基盤研究C
	栗生田友子	入院中の高齢者のせん妄発症にかかわる環境因子のリスクコントロール(2009~2011年度)	基盤研究C
	永吉 雅人	乳幼児期における知覚・運動の相互発達模倣型強化学習システム(2009~2010年度)	若手研究B
	岡村 典子	中堅看護師の就業継続に向け管理者に必要とされる支援に関する研究(2009~2012年度)	若手研究B

	研究代表者	課題 (期間)	研究種目
2 継続課題	渡辺 弘之	ベトナムのハンセン病(元)患者および家族の状況分析と社会復帰支援に関する研究(2008~2011年度)	基盤研究B
	加城貴美子	0歳から12歳までの足の発育に関する基礎的研究(2007~2009年度)	基盤研究C
	平澤 則子	難病患者家族の介護プロセスにおける対処方略の学習支援プログラム開発(2007~2009年度)	基盤研究C
	酒井 禎子	緩和ケアに移行するがん患者・家族の意思決定支援モデル構築(2008~2010年度)	基盤研究C
	飯吉 令枝	豪雪過疎地域の高齢者の自立生活継続のための介護予防マネジメント技術の検討(2008~2010年度)	基盤研究C
	水澤 久恵	認知症高齢者の意思決定の構造と意思決定支援ガイドモデルの作成に関する研究(2008~2010年度)	挑戦的萌芽研究
	菅原 峰子	急性期治療を受ける高齢患者の睡眠の変化とせん妄発症のプロセスの絡みについての研究(2007~2009年度)	若手研究B
	西片 真弓	母体搬送となった女性の搬送前後のストレス要因と看護ケアの取り組みについての検討(2008~2010年度)	若手研究B
	櫻井 信人	自死遺族を対象とした自助グループの構築に関する研究(2008~2010年度)	若手研究B
	飯田 智恵	豪雪地域における前期高齢者の日常生活活動の実態(2008~2010年度)	若手研究B

入試関連情報

■試験科目等

	特別選抜入試		一般選抜入試	
	推薦 (高等学校推薦)	社会人 (自己推薦)	前期	後期
個別試験科目	小論文(英文資料の読解を含む)、面接		小論文、面接	
試験会場	新潟県立看護大学			
出願期間	21年11月2日～11月11日		22年1月25日～2月3日	
試験期日	21年11月21日		22年2月25日 22年3月12日	
合格発表	21年11月30日		22年3月4日 22年3月20日	

1. 平成22年度 入学試験の概要

■募集人員

入学定員	特別選抜入試		一般選抜入試	
	推薦	社会人	前期	後期
90名	30名	若干名	50名	10名

※一般選抜入試前期試験の募集人員には、社会人特別選抜の若干名を含む。

※一般選抜入試を出願する方は、平成22年度大学入試センター試験で本学が指定する教科・科目(5教科6科目)を受験する必要があります。詳しくは教務学生課教務係(電話 025-526-2811)までお問い合わせ下さい。

2. 平成22年度 3年次編入学試験の概要

募集人員	10名			
出願資格	次の各号のすべてに該当する者 ①学校教育法第83条に定める大学を卒業した者(平成22年3月卒業見込みの者を含む)、または、学校教育法第132条の規定に基づき看護系専門学校(専修学校専門課程)を卒業した者(平成22年3月卒業見込みの者を含む)。ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する(見込み)者に限る。 ②看護師免許取得者(平成22年取得見込みの者を含む)			
試験科目	看護学・英語・面接	試験会場	新潟県立看護大学	
出願期間	平成21年7月27日～8月3日			
試験期日	平成21年9月2日	合格発表	平成21年9月9日	

3. 平成22年度 大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)入学試験の概要

募集人員	15名			
出願資格	次の各号のいずれかに該当する者 ①学校教育法第83条に定める大学を卒業した者および平成22年3月卒業見込みの者 ②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者および平成22年3月31日までに修了見込みの者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者および平成22年3月31日までに修了見込みの者 ④文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号) ⑤本大学院において個別の審査により大学を卒業した者と同等以上の学力が認められた者で満22歳に達した者 (※⑤の資格により出願しようとする者は、事前に本大学院の「出願資格審査」を受けることが必要です。)			
事前面談	出願する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と面談することが必要です。			
事前面談期間	平成21年6月15日～7月17日			
試験科目	英語・看護専門科目・面接	試験会場	新潟県立看護大学	
出願期間	平成21年7月29日～8月3日			
試験期日	平成21年9月2日	合格発表	平成21年9月10日	

4. オープンキャンパス

新潟県立看護大学の概要や来年度の入試概要を、受験希望の方や、看護系へ進学を考えている皆さんに知っていただくため、オープンキャンパスを開催します。お問い合わせのうえ、ぜひご参加下さい。

- 期 日 第1回:平成21年8月5日(水) 第2回:平成21年8月25日(火)
各回とも12時から受付を開始し、時間は13:00～16:00の予定です。
- 内 容 大学の概要、平成22年度入試日程のほか、施設案内、体験学習、個別相談を行います。
- 申込方法 参加希望の方は、事前に「氏名」、「学校名」、「参加希望日」を、電話、Fax、またはメールにて、下記までお知らせ下さい。
(毎回120名程度の定員としますので、本学で参加日を調整させていただくことがあります)
- 問 合 せ 教務学生課教務係 電話 025-526-2811、FAX 025-526-2815、E-mail:kyoumu@niigata-cn.ac.jp

5. 平成21年度 1年次入学者状況

選抜区分	実施日	募集人数	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
一般推薦	H20.11.22	30名	37名	30名	1.23	30名	30名	3名
社会人特別選抜		若干名	8名	4名	2.00	3名	2名	1名
一般選抜(前期)	H21.2.25	50名	146名	51名	2.86	49名	24名	4名
一般選抜(後期)	H21.3.12	10名	46名	10名	4.60	6名	5名	0名
合 計		90名	237名	95名	2.49	88名	61名	8名

6. 平成21年度 3年次編入学者状況

試験種別	実施日	募集人数	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
3年次編入学	H20.9.3	10名	11名	10名	1.10	5名	1名	1名

7. 平成21年度 大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)入学者状況

試験種別	実施日	募集人員	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
一 次 募 集	H20.9.3	15名	1名	0名	—	0名	0名	0名
二 次 募 集	H21.2.2		3名	3名	1.00	3名	2名	0名

編集後記

今号の本格的な準備は、高田公園の観桜会の時期でした。今年は晴天と「天地人」の効果でしょうか、大変なにごわいでした。桜が散るとともに本格的に講義が開始され、学生も教員も今年度の目標に向かって進みだしています。世界情勢には厳しい側面も多いですが、こんな時期こそ「頼れる自分づくり」に励まねば!と思うこの頃です。

広報委員 菅原 峰子

 新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811
Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp